

下水道事業

2026/8/25

京田辺市上下水道事業経営審議会（第3回）

（下水道ビジョンでの予測値と実績値との比較について）



下水道事業

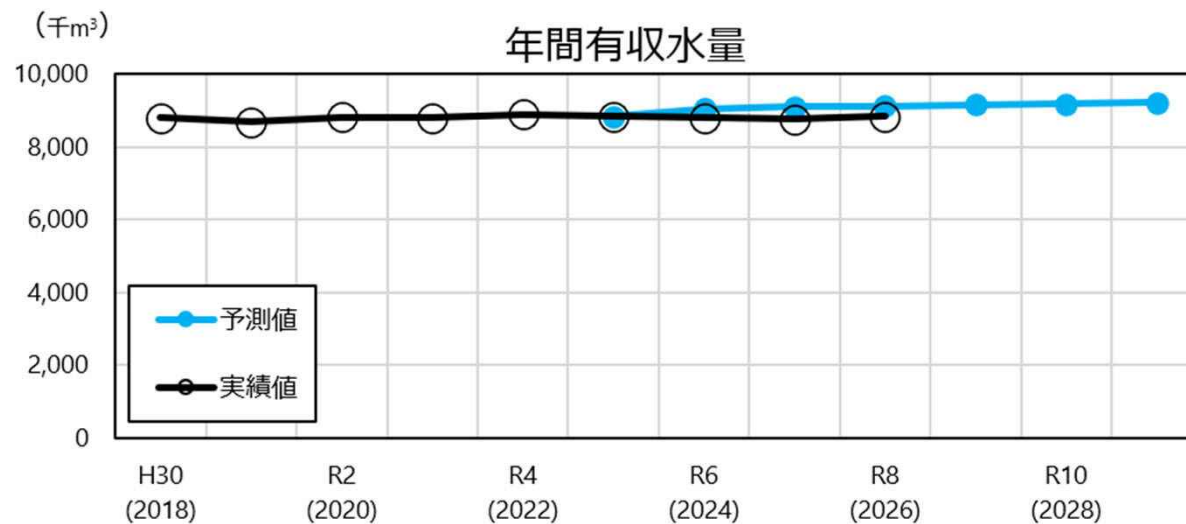
1. 人口・有収水量について
2. 収益的収支について
3. 資本的収支について
4. 資金残高等について
5. まとめ

農集排事業

6. 人口・有収水量について
7. 収益的収支について
8. 資本的収支について
9. 資金残高等について
10. まとめ

1. 人口・有収水量について

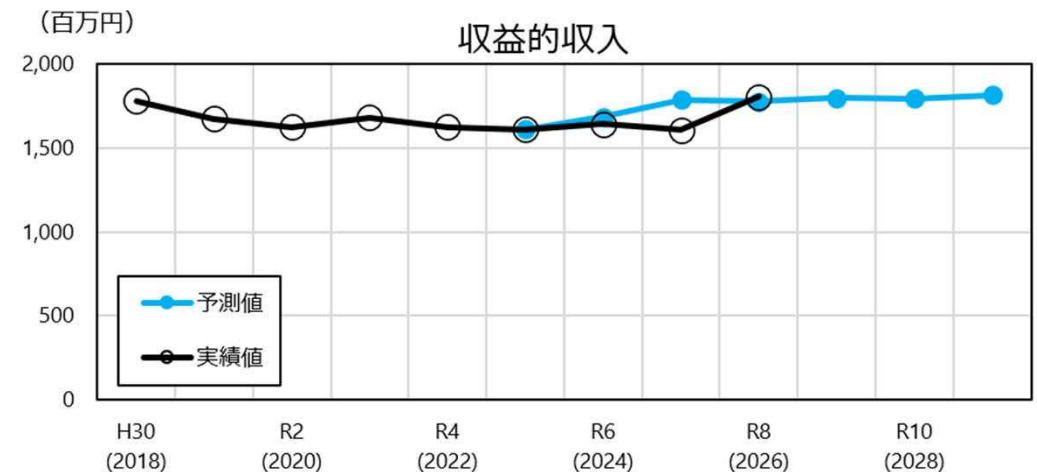
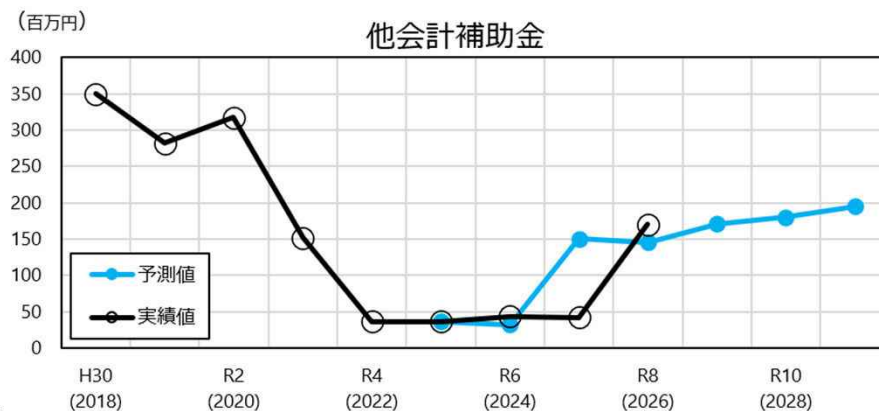
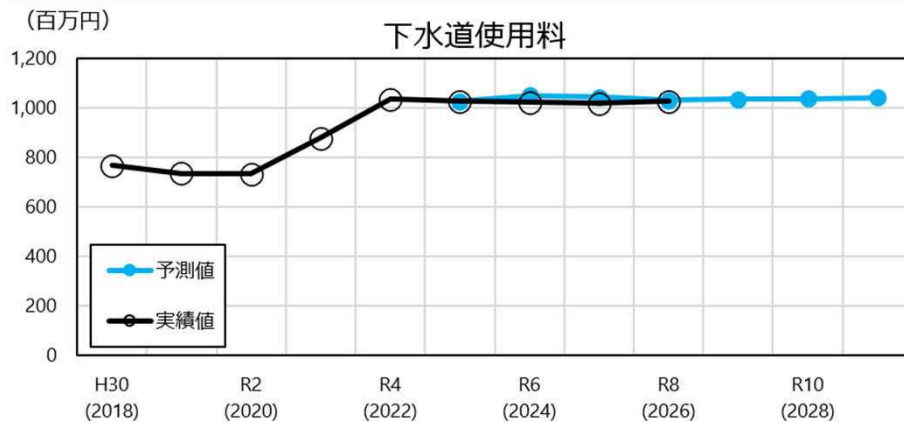
- 年間有収水量は、予測値では開発水量を見込んでいなかったため、ほぼ同程度の値で決算値や予算値が推移している。



2. 収益的収支について

下水道事業

- 下水道使用料は、有収水量の動きに連動するため、令和6～7年度は予測値とほぼ同程度の値で推移している。
- 収益的収入の合計では、令和7年度の決算値が予測値を下回る結果となっている。主な要因は他会計補助金が予測値を下回ったためである。なお、令和8年度は予測値並みの予算額となっている。

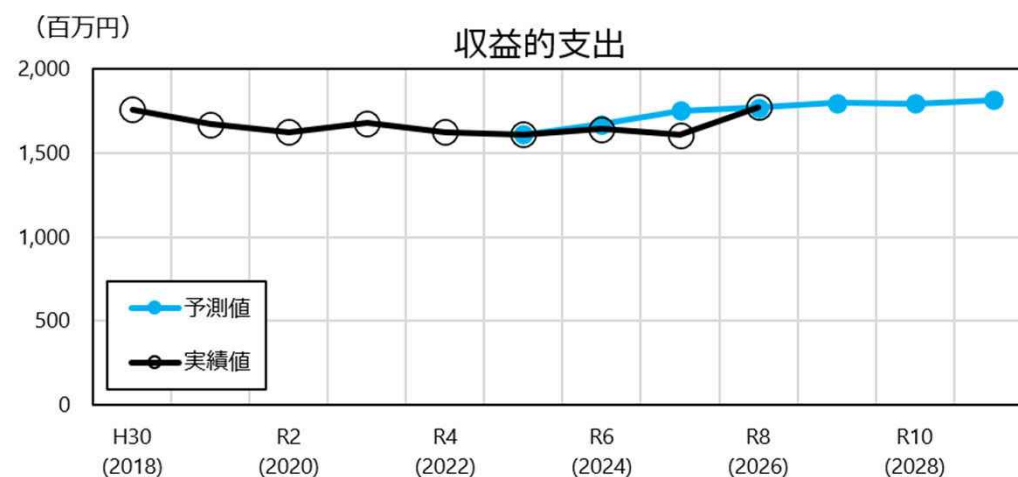
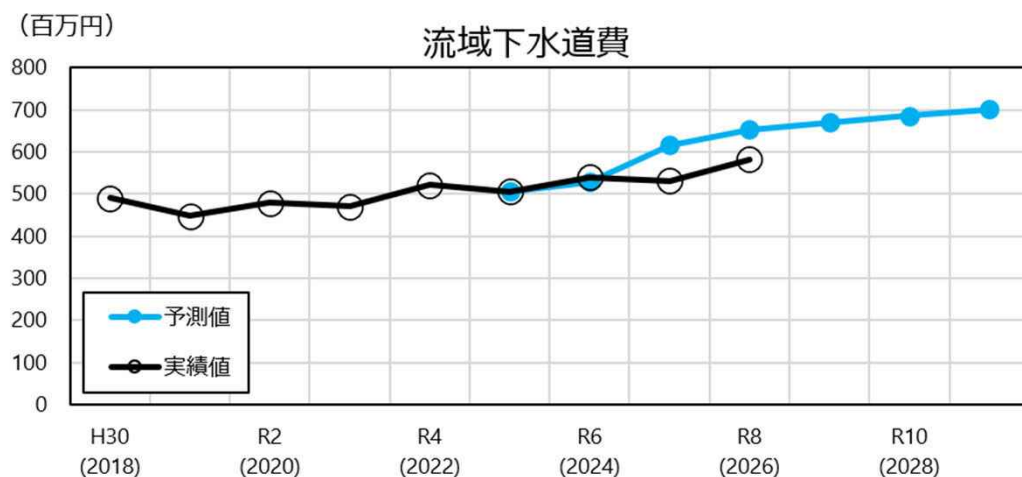


※実績値は、令和6年度までが決算値、令和7年度が決算見込案、令和8年度が予算値を示す。

2. 収益的収支について

下水道事業

- 流域下水道費は、開発水量を見込んだ汚水処理水量で予測していたため、開発計画の遅れにより汚水処理水量が減少し、決算値は予測値を下回る結果となった。
- 収益的支出についても流域下水道費と連動し、令和7年度の予測値に対して決算値が下回っている。ただし、令和8年度は物価上昇等も影響して予測値と同程度になるものと考えている。

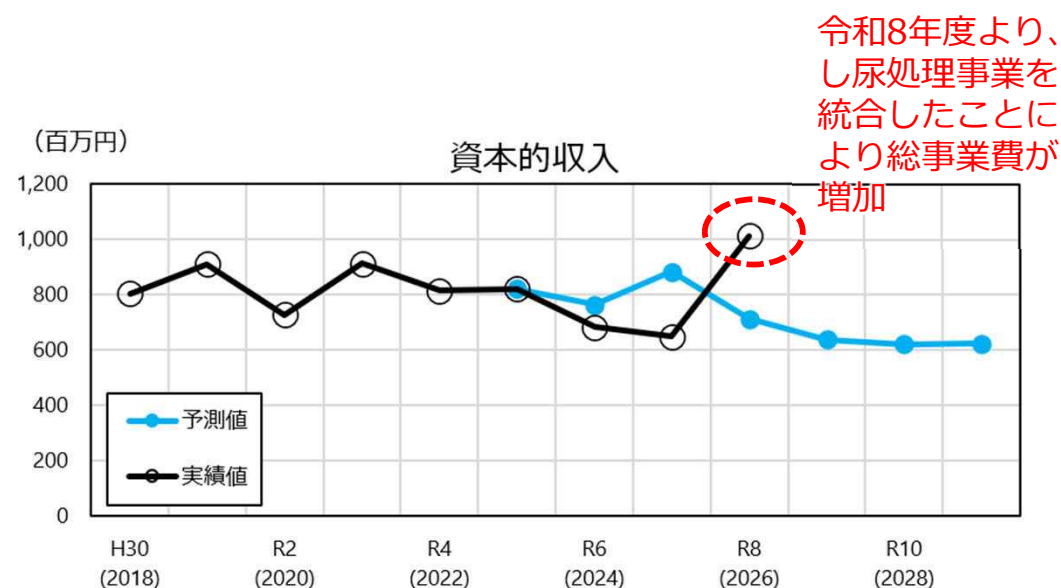
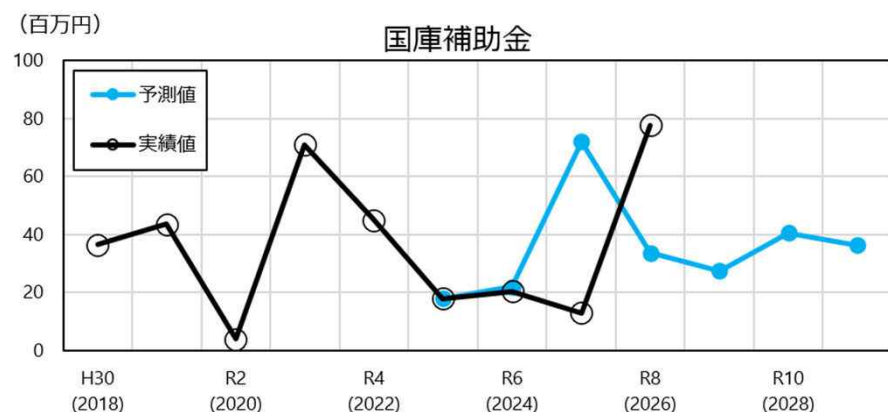
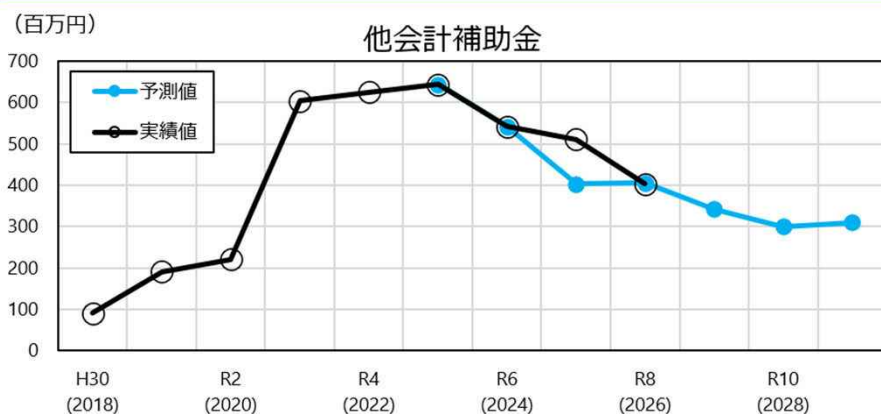


※実績値は、令和6年度までが決算値、令和7年度が決算見込案、令和8年度が予算値を示す。

3. 資本的収支について

下水道事業

- 令和7年度の建設改良費と流域下水道負担金の下振れにより、国庫補助金の決算値は予測値を大幅に下回ったが、他会計補助金は若干上回った。
- 国庫補助金は、建設改良工事のズレ（令和7→令和8年度）により、予算値は予測値を上回っている。

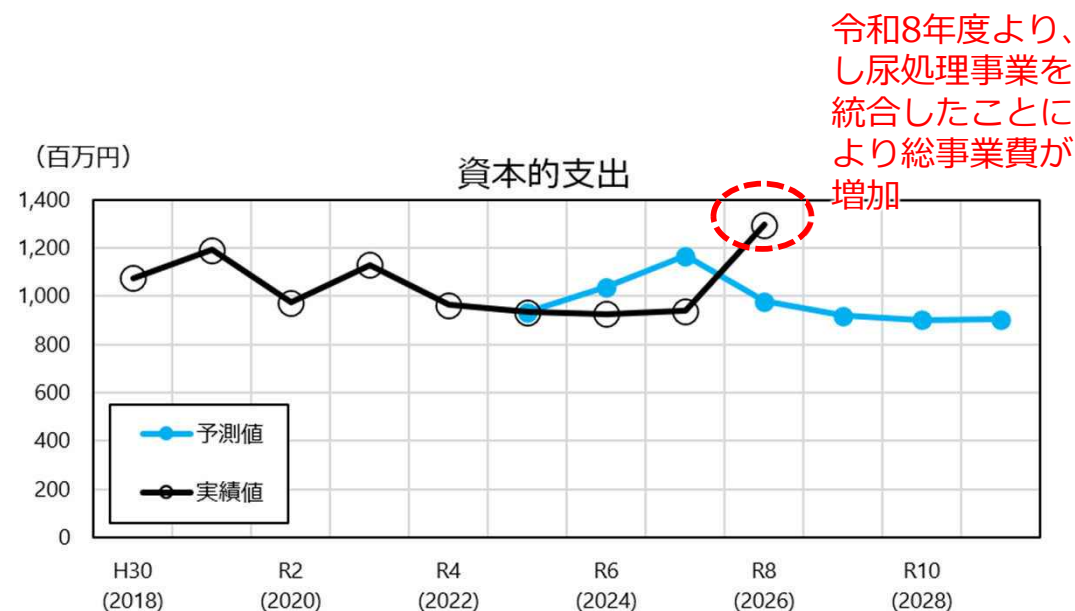
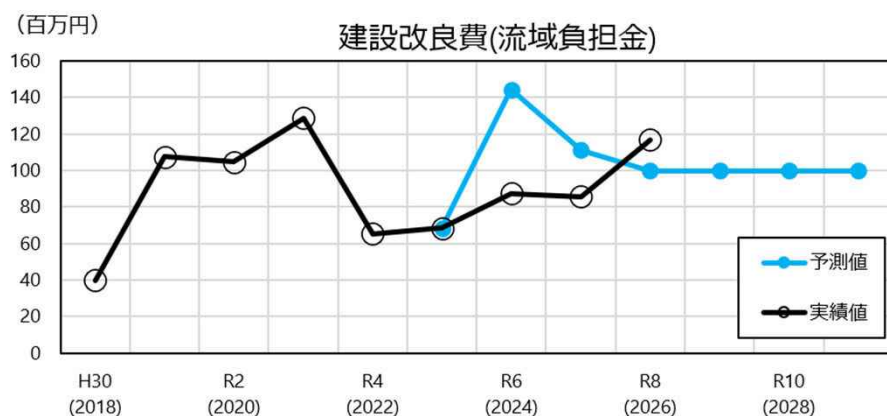
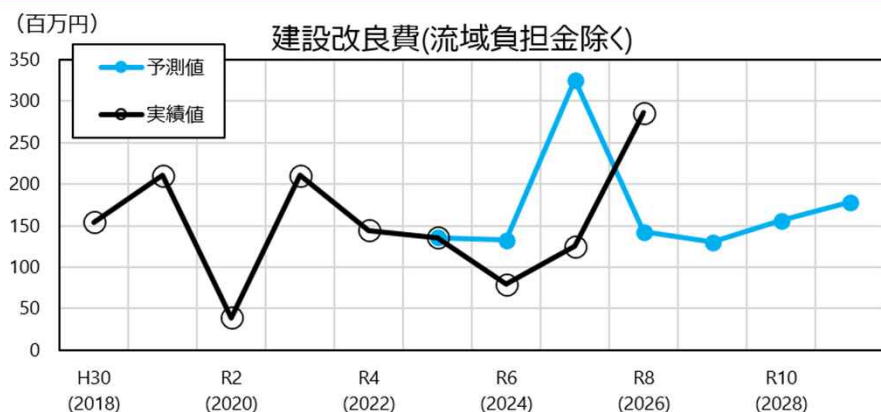


※予測値との比較のため、し尿処理事業費は除いている。

3. 資本的収支について

下水道事業

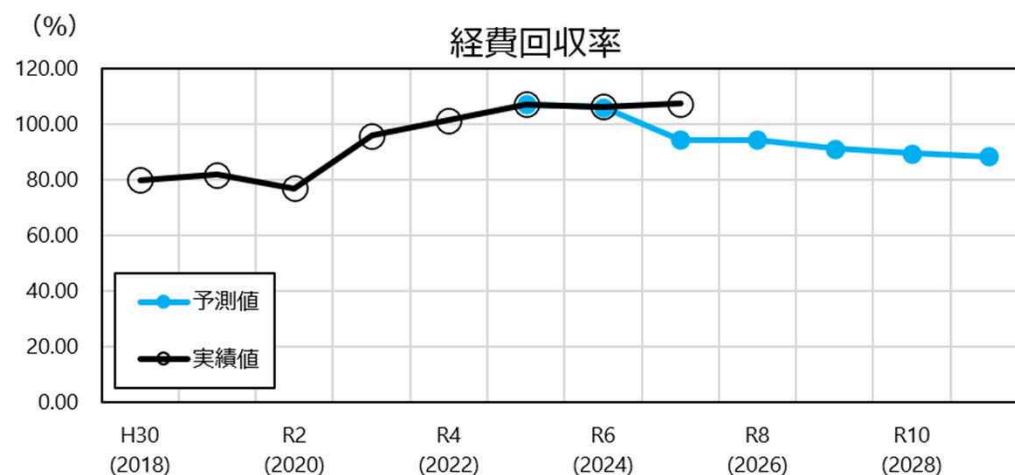
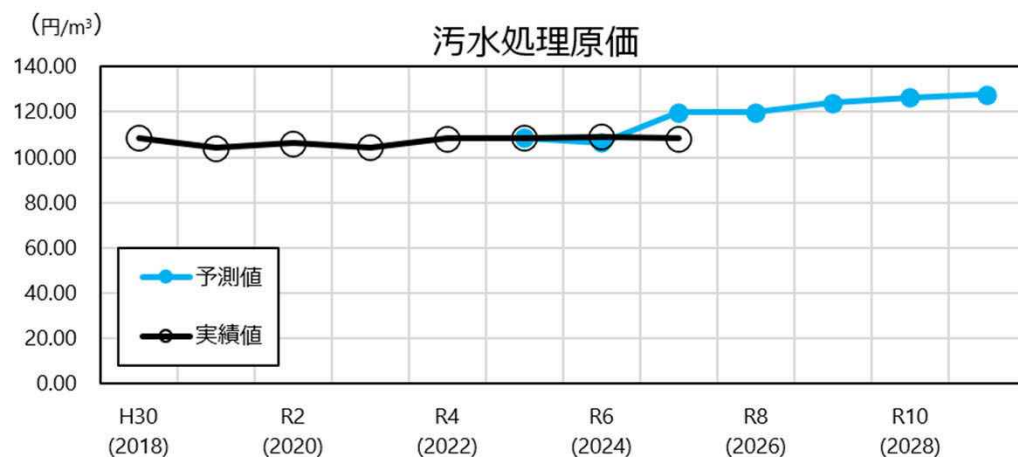
- 建設改良費は、令和7年度以降に予定した建設改良工事の遅れにより、決算値は予測値を大幅に下回った。
- 流域下水道負担金は、物価上昇の影響を考慮し大きく見込んでいたが、決算値は予測値を下回った。



※予測値との比較のため、し尿処理事業費は除いている。

4. 資金残高等について

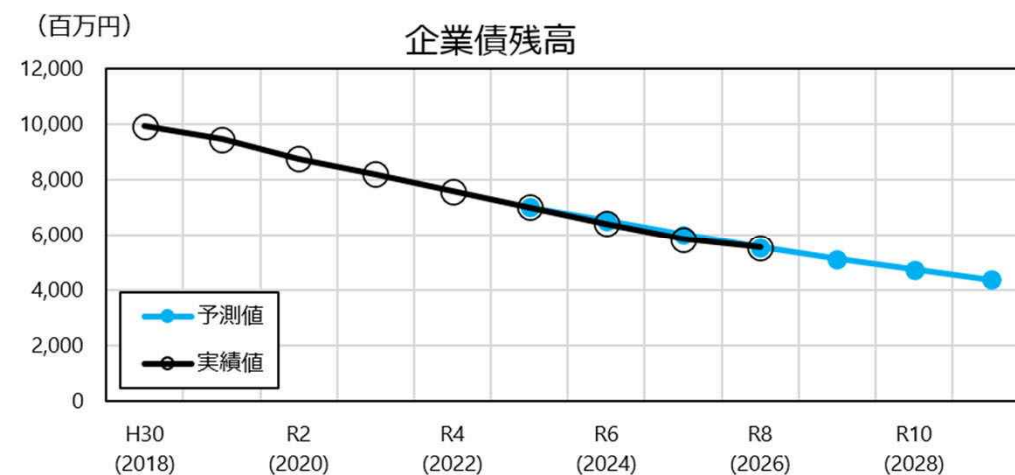
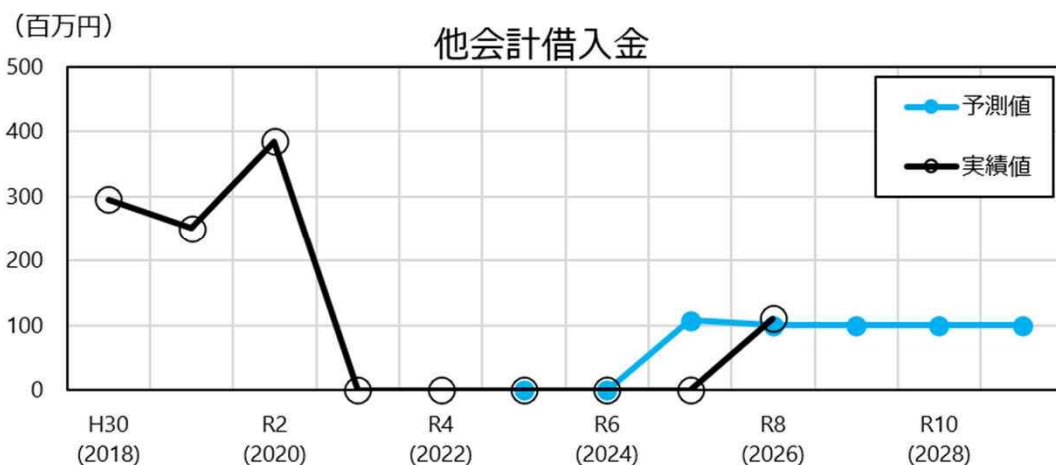
- 令和6～7年度の汚水処理費の予測値は、物価上昇を高めに見込んだ費用設定としていたが、実績値は予測値を下回ることになり、汚水処理原価は下振れ、経費回収率は上振れとなった。



※予算時には、汚水処理費（公費負担分除く）の算定は行っていない。

4. 資金残高等について

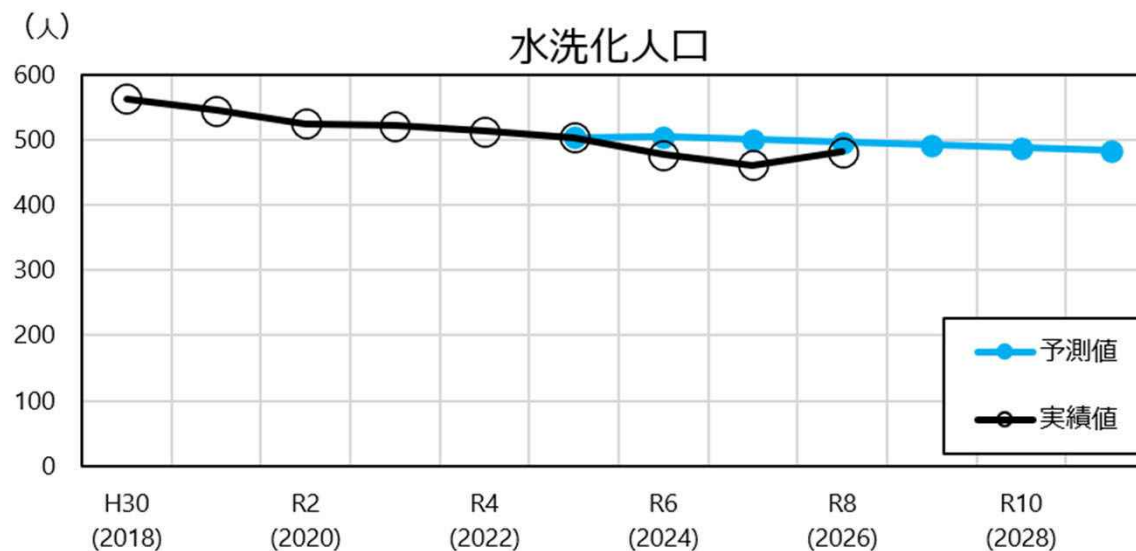
- 令和7年度より資金不足を補うために水道事業から借入を行う予定であったが、他会計補助金が予定より多かったため借入は行わずに済んだ。ただし、令和8年度以降は、予測値通りに借入を実施する予定である。
- 企業債の償還は予定通り行われており、企業債残高もほぼ同程度の値で決算値や予算値が推移している。



- 下水道使用料は、開発水量を見込まない年間有収水量で予測した結果、決算値と予測値は同程度となっている。一方、流域下水道費は、開発水量を見込んだ汚水処理水量で予測した結果、開発計画の遅れにより汚水処理水量が減少し、決算値は予測値を下回る結果となった。
- 資本的収支では、建設改良工事の遅れにより、決算値は予算値を大幅に下回った。財源となる国庫補助金等も同様の傾向となる。
- 令和7年度より水道事業からの借入を予定していたが、他会計補助金が予定よりも多かったため、借入を行わずに済んでいる。
- 令和6～7年度の汚水処理費（流域分担金）の予測値は、物価上昇を考慮し高めにしていたが、そこまでの費用増とはなっていない。令和8年度以降の流域下水道の見直しに合わせ、市の支出の見通しも検討が必要となる。

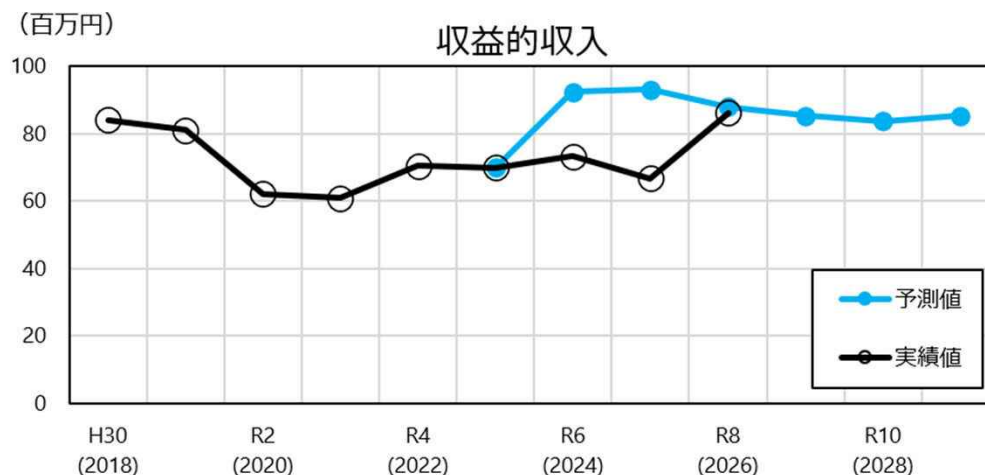
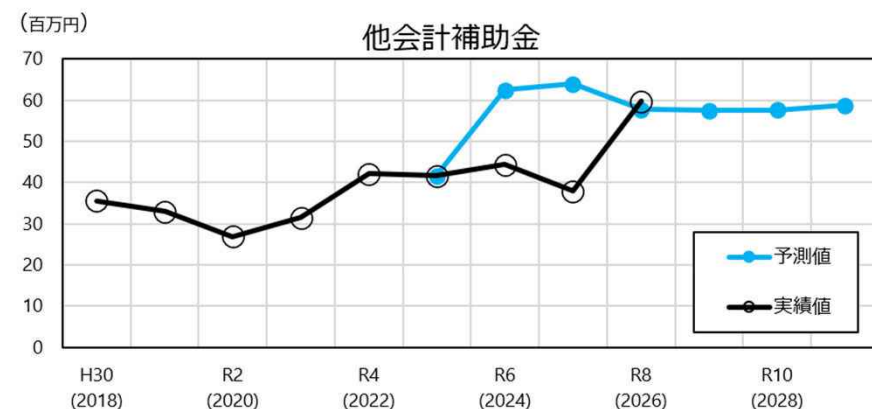
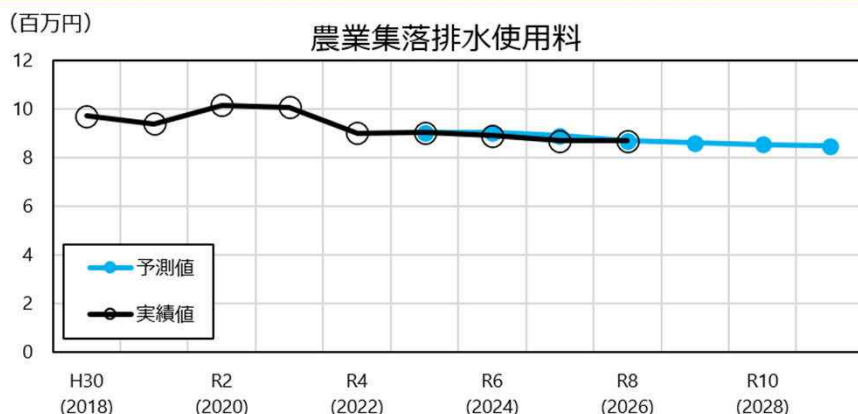
6. 人口・有収水量について

- 農業集落排水使用料の基となる水洗化人口は、令和12年度までゆるやかに減少する予測であったが、令和6～7年度の決算値は予測を上回る減少となっている。



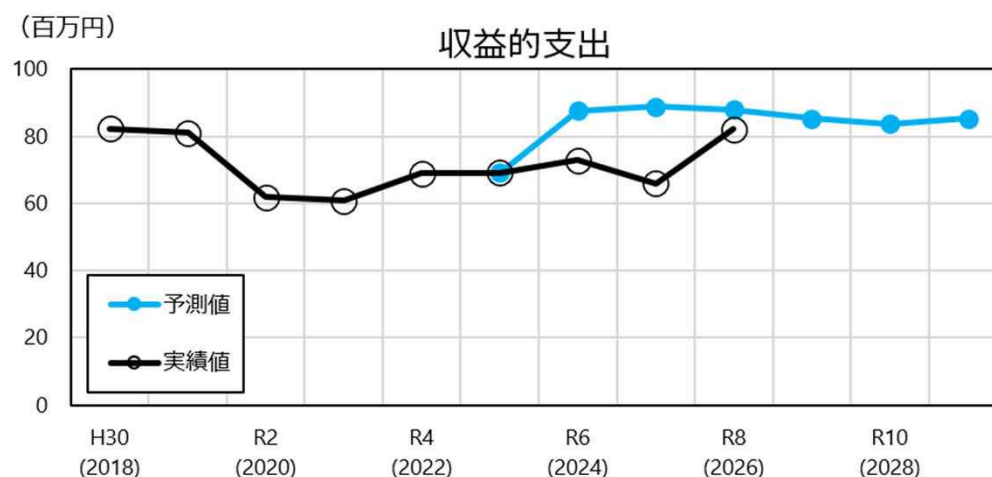
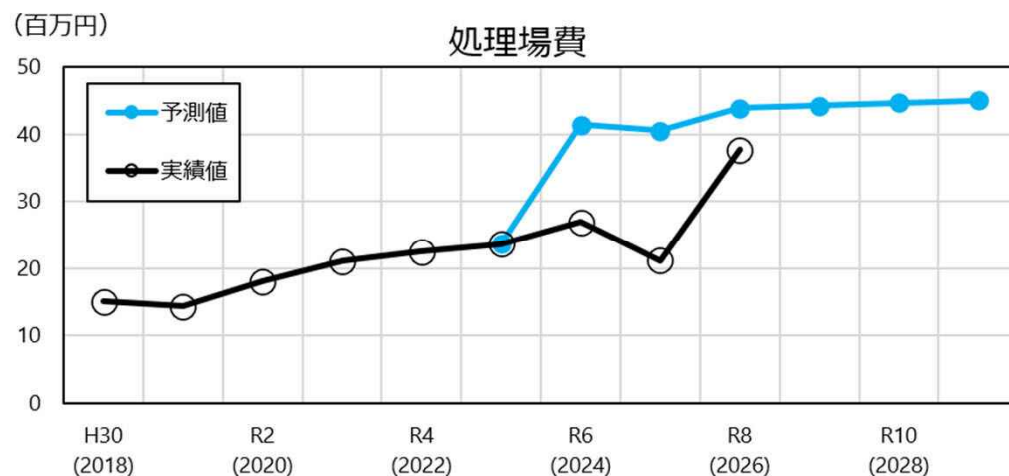
7. 収益的収支について

- 農業集落排水使用料は、水洗化人口の動きに連動するため、令和6～7年度は予測値をやや下回る値で推移している。
- 収益的収入の合計では、令和6～7年度の決算値が予測値を下回る結果となっている。主な要因は他会計補助金が予測値を下回ったためである。なお、令和8年度は予測値並みの予算額となっている。



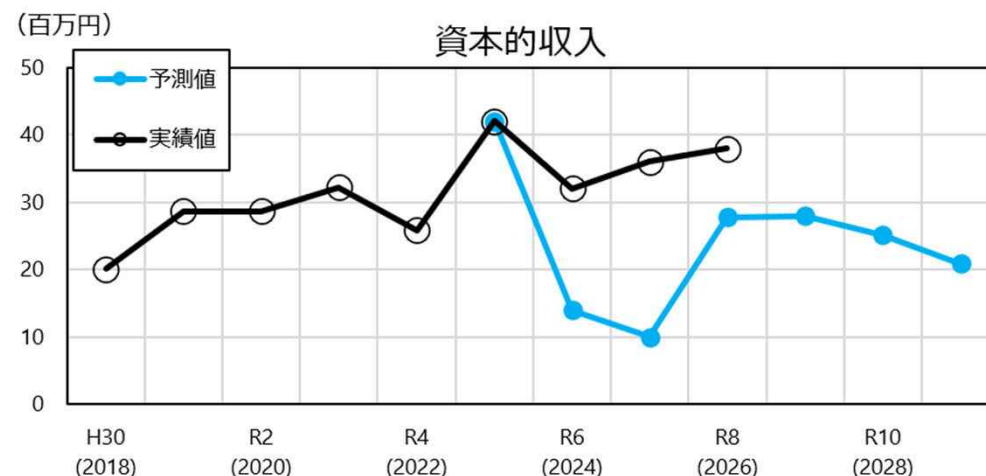
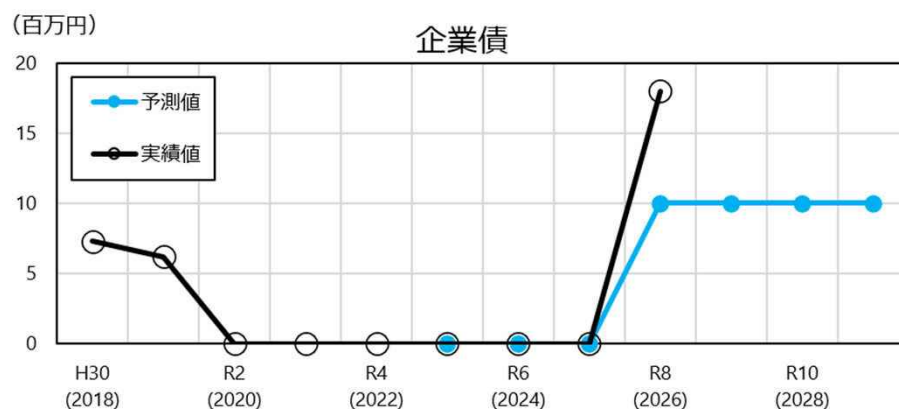
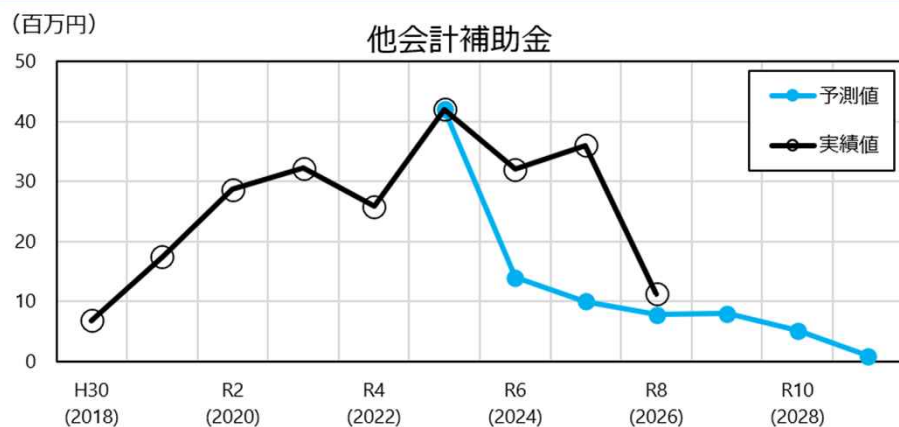
7. 収益的収支について

- 農業集落排水では3箇所の処理場を有しているが、職員人件費や委託料といった処理場費が、決算値は予測値を大幅に下回る結果となった。
- 収益的支出についても処理場費と連動し、令和6～7年度の予測値に対して決算値が下回っている。ただし、令和8年度は物価上昇等も影響して予測値と同程度になるものと考えている。



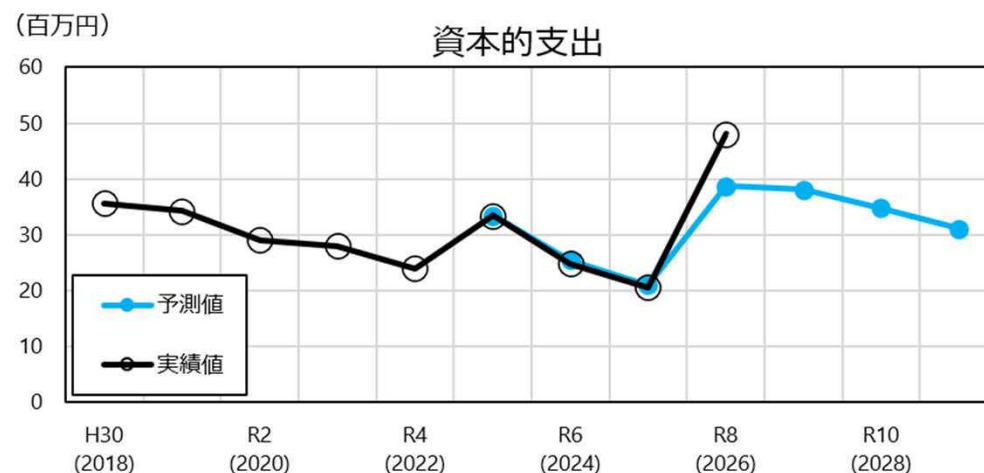
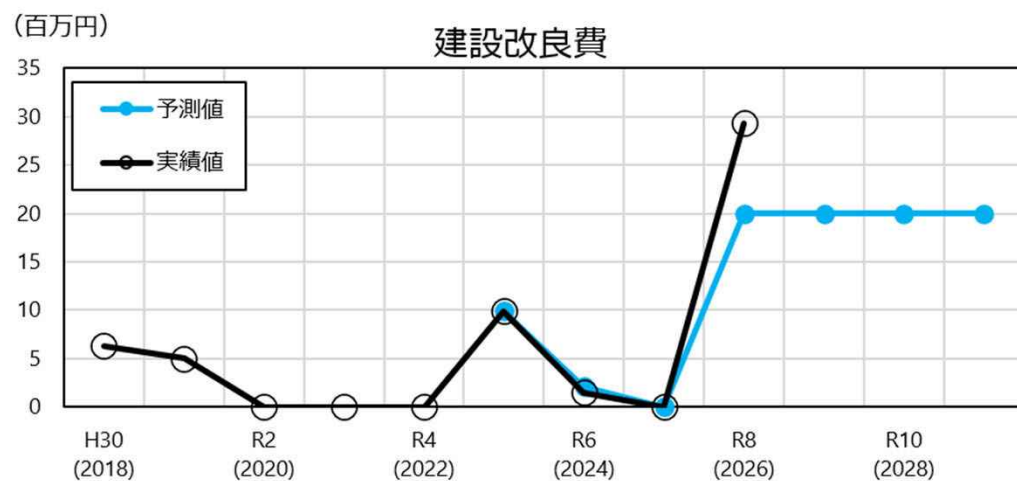
8. 資本的収支について

- 資本的収入は、企業債や国庫補助金は予測と同程度であったが、他会計補助金が令和6～7年度の予測値に対して決算値が2千万円以上大幅に上回り推移した。
- 令和8年度は、他会計補助金を予測値と同程度に据え置き、企業債を多く発行する予定である。



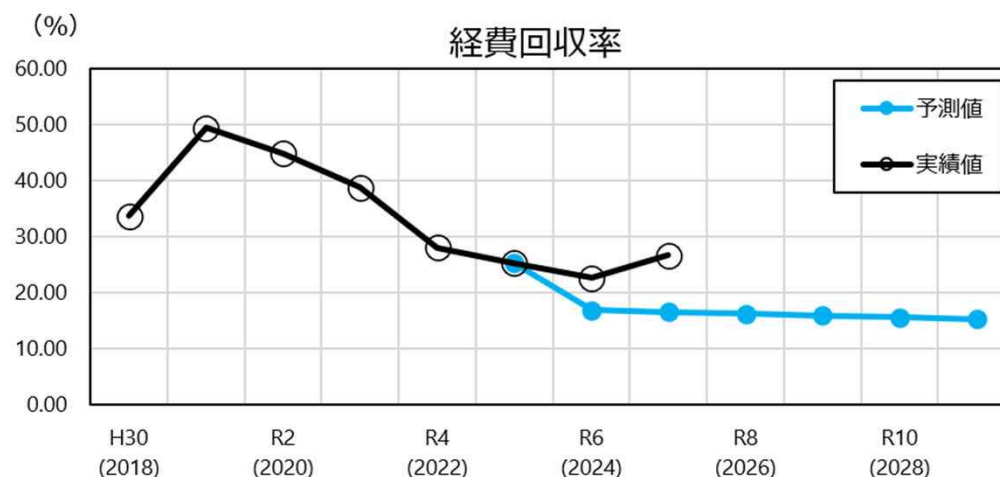
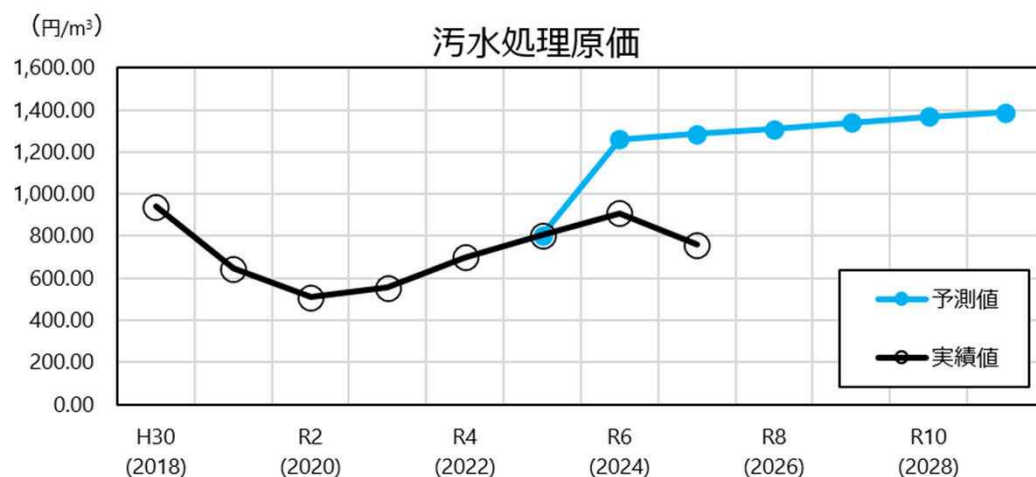
8. 資本的収支について

- 令和8年度以降の建設改良費の予測値は、平準化した施設更新費を見込んでいたが、物価上昇等を考慮して予測値より高めの予算を想定している。



9. 資金残高等について

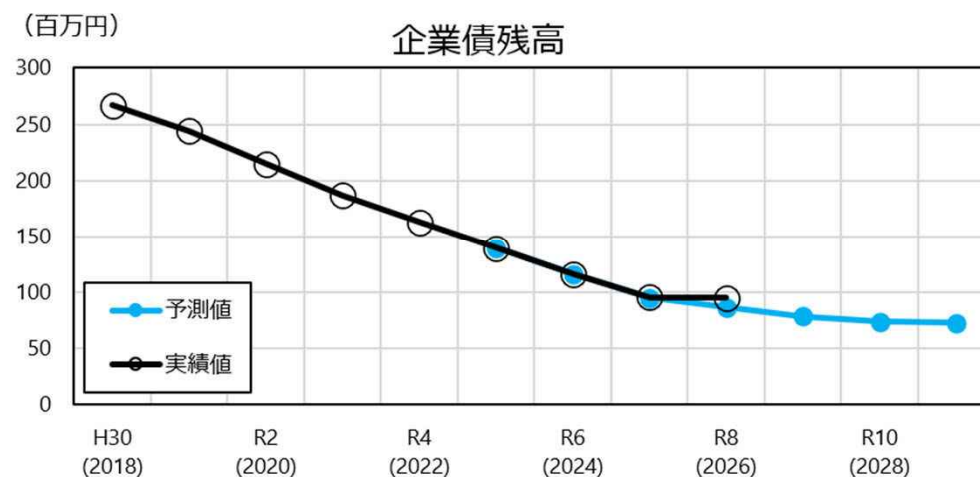
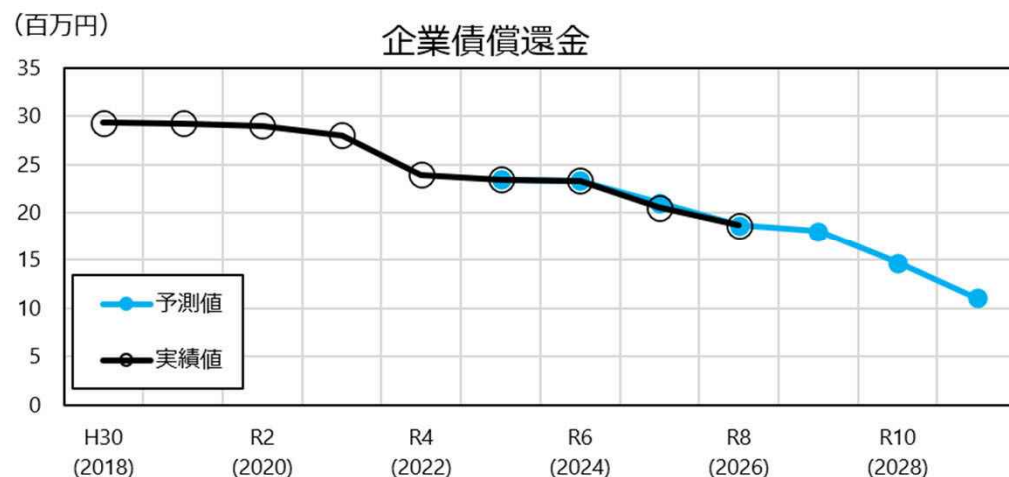
- 令和6～7年度の汚水処理費の予測値は、物価上昇を高めに見込んだ費用設定としていたが、実績値は予測値を下回ることになり、汚水処理原価は下振れ、経費回収率は上振れとなった。



※予算時には、汚水処理費（公費負担分除く）の算定は行っていない。

9. 資金残高等について

- 企業債の償還は予定通り行われている。
- 令和8年度は、企業債を予測値より多く発行する予定であり、結果、企業債残高は予測値より予算値の方がやや高くなっている。



- 水洗化人口はゆるやかに減少する予測としているが、予測を上回る減少となっている。
- 収益的収入では、6,000万円超の他会計補助金を予測していたが、実際には5,000万円を下回ることとなった。
- 資本的収入では、1,000万円程度の他会計補助金を予測していたが、実際には3,000万円を上回ることとなった。
- 令和6～7年度の汚水処理費の予測値は、物価上昇を高めに見込んだ費用設定としていたが、実際にはそこまでの費用支出とならなかったため、汚水処理原価は下振れ、経費回収率は上振れとなった。